

6. 主要通過点及び現況写真等

全路線延長

■ L=9,840m

A 路線

路線の概要

A 路線は、十八線沢林道の 2.5km 付近を起点とし、大楸林道終点を結ぶ延長 2.8km の路線で、1041 林班から 1044 林班の広い施業範囲をカバーするとともに、B 路線及び C 路線の 2 つの路線がこの A 路線に合流して市場に向かうため重要な役割を果たす路線となる。現在既設作業道路が、林道の規程に沿って作られていることから格上げして林業専用道として利用する。

延長

■ L= 2,770m

主な構造物

■ 既設コルゲートパイプ(φ1.0m) 常水は側溝水程度	・・・	1箇所
■ 既設コルゲートパイプ(φ0.6m)	・・・	1箇所
コルゲートパイプ(φ1.2m)、もしくはBOXカルバート(B=0.8 H=0.8)		
	計	2箇所
■ 既設ポリ波状パイプ(φ0.3m)	・・・	4箇所
■ 既設ポリ波状パイプ(φ0.4m)	・・・	1箇所
■ 既設ポリ波状パイプ(φ0.6m)	・・・	1箇所
コルゲートパイプ(φ2.5m)、もしくはBOXカルバート(B=1.5 H=1.5)		
■ ポリ波状パイプ(φ0.4m) もしくは暗渠排水工等	・・・	6箇所

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。
- 沢渡り前後の水捌けの悪い区間や、湧水及び表面水が集まるような箇所については、山側に側溝を設置している。
 - A-0~A-75 区間：側溝有り。
 - A-75~A-84 区間：側溝無し。

① A-0～A-10 区間

十八線沢林道の 2.5 km 付近から分岐する既設作業道路を利用する区間で、林道の規程に沿って作られていることから格上げして林業専用道として利用する。起点付近の短い区間で 14% の縦断勾配を利用しているが、概ね 5% 程度の勾配で通過している。A-6 と A-7 の間に C 路線の分岐点がある。

縦断勾配： 3～14% 程度

横断勾配： 5° ～10° 程度

A-3～A-4 の沢：既設ポリ波状パイプ(φ0.3m)

A-7～A-8：側溝水 既設ポリ波状パイプ(φ0.3m)



十八線沢林道からの分岐点（起点）



A-7 から A-8 方向

② A-11～A-20 区間

A-11～A-20 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。5°～10°程度の緩傾斜地を一部 15%の急な縦断勾配を利用しているが、概ね 3%～7%程度の勾配で通過している。

縦断勾配： 3～15%程度

横断勾配： 5°～10°程度

A-14～A-15：側溝水 既設ポリ波状パイプ(φ0.3m)

A-17～A-18の沢：既設コルゲートパイプ(φ1.0m) 水量は側溝水程度。

A-18～A-19の沢：沢勾配 10% 既設ポリ波状管(φ0.6m) コルゲートパイプ(φ2.5m)、もしくはBOXカバー(B=1.5 H=1.5)程度が必要。



A-11 から A-12 方向



A-16 から A-17 方向



A-17～A-18 の既設コルゲートパイプ (φ1.0m)



A-18～A-19 方向



A-18～A-19 の沢上流から CL 方向 呑口 既設ポリ波状管 (φ0.6m)



A-18～A-19 の沢下流方向 吐口 既設ポリ波状管 (φ0.6m)

③ A-21～A-30 区間

A-21～A-30 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。0.5°～9°程度の緩傾斜地を一部9%の縦断勾配を利用しているが、概ね1%～4%程度の勾配で通過している。A-23で沢水と側溝水を処理するため既設コルゲートパイプ(φ0.6m)が布設されている。

縦断勾配：0.5～9%程度

横断勾配：8°～10°程度

A-23の沢：コルゲートパイプ(φ1.2m)、もしくはBOXカルバート(B=0.8 H=0.8)程度が必要。



A-21～A-22 方向



A-23の既設コルゲートパイプ 呑口(φ0.6m)

④ A-31～A-40 区間

A-31～A-40 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。緩傾斜地を一部 14%の急な縦断勾配を利用し、尾根部に向かい上がっている。A-38 と A-39 の中間に B 路線の分岐点がある。

縦断勾配： 1～14%程度

横断勾配： 7° ～16° 程度



A-32～A-33 方向



A-38～A-39 方向

⑤ A-41～A-50 区間

A-41～A-50 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。1042 林班と 1041 林班の境界線にあたる尾根部を越え大榎林道終点に向かい一部 10%の縦断勾配を利用して下っている。

縦断勾配： 1～10%程度

横断勾配： 12° ～16° 程度



A-42～A-43 方向



A-46～A-47 方向

⑥ A-51～A-60 区間

A-51～A-60 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。緩傾斜地を概ね 1%～2%程度の緩い縦断勾配を利用し、終点に向かって下っている。A-52 と A-53 の中間に C 路線の合流点がある。

縦断勾配： 1～2%程度

横断勾配： 8°～13°程度



A-53～A-52 方向 (C 路線合流箇所)



A-60～A-61 方向

⑦ A-61～A-70 区間

A-61～A-70 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。緩傾斜地を概ね 1%～4%程度の緩い縦断勾配を利用し、終点に向かって下っている。

縦断勾配： 1～5%程度

横断勾配： 5° ～13° 程度



A-63～A-64 方向



A-69～A-70 方向

⑧ A-71～A-74 区間

A-71～A-74 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。緩傾斜地を概ね 2%～3%程度の緩い縦断勾配を利用し、終点に向かって下っている。A-74～A-75 で既設作業道の分岐点に合流している。

縦断勾配：2～3.5%程度

横断勾配：5°～7°程度



A-71～A-72 方向



A-74～A-75 方向

⑨ A-75～A-83 区間

A-75～A-83 区間は、既設作業道路を格上げして林業専用道として利用する。A-80 と A-81 の間に E 路線との接続点があり、緩傾斜地を一部 13%の急な縦断勾配を利用しながら、大榎林道終点に接続する。

縦断勾配：2～13%程度

横断勾配：7°～9°程度



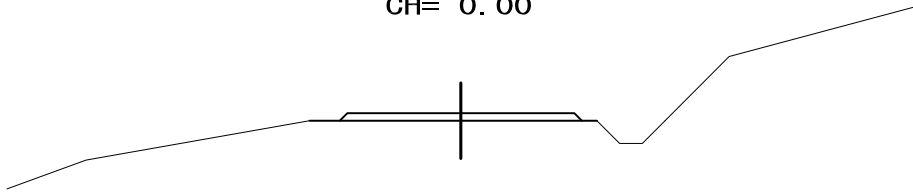
A-75～A-76 方向



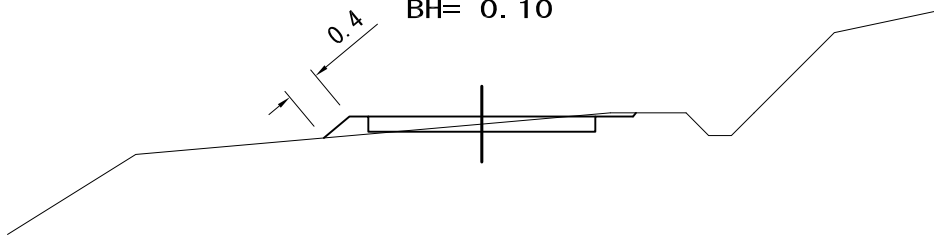
終点 A-83 から既設大榎林道起点方向

標準横断面図 S=1:100

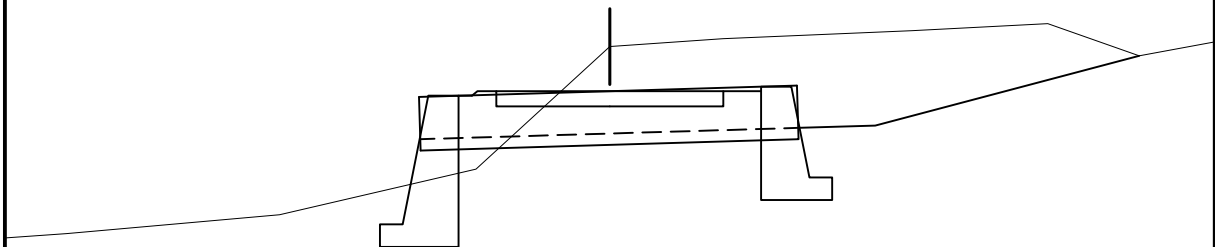
A-32
CH= 0.00



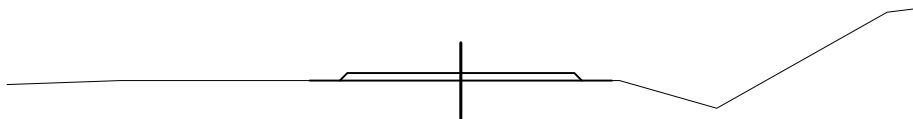
A-25
BH= 0.10



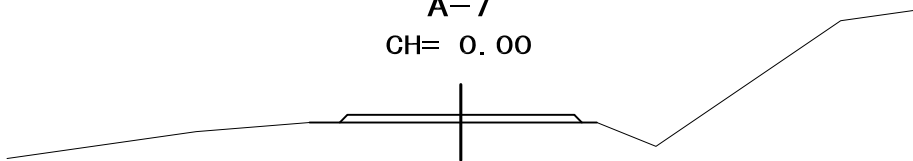
A-18-1
CH= 0.59



A-13
CH= 0.00

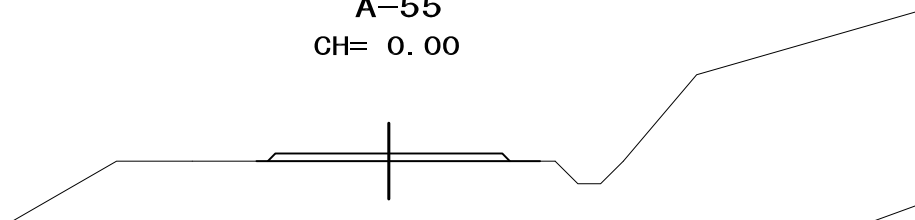


A-7
CH= 0.00

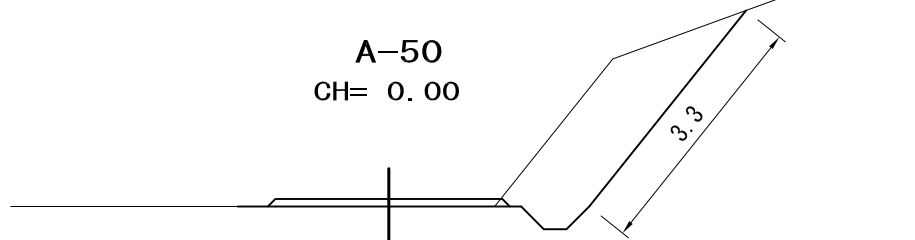


標準横断面図 S=1:100

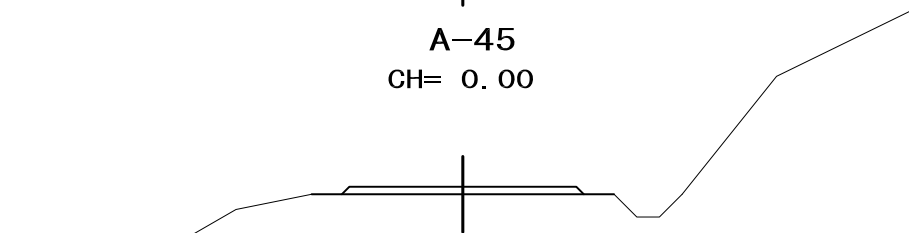
A-55
CH= 0.00



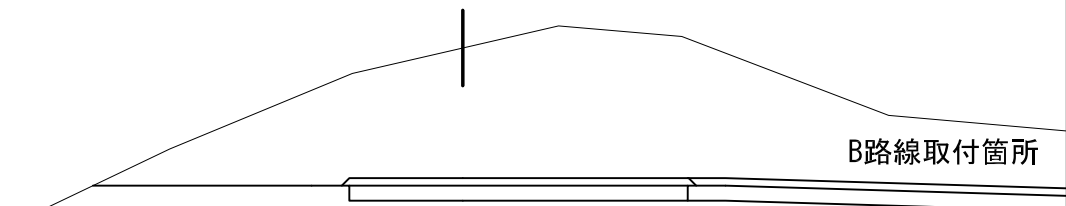
A-50
CH= 0.00



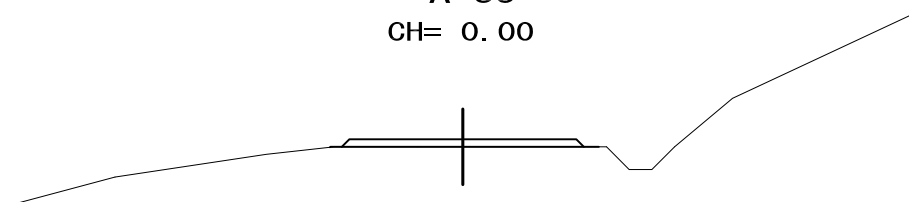
A-45
CH= 0.00



A-39-1
CH= 1.82

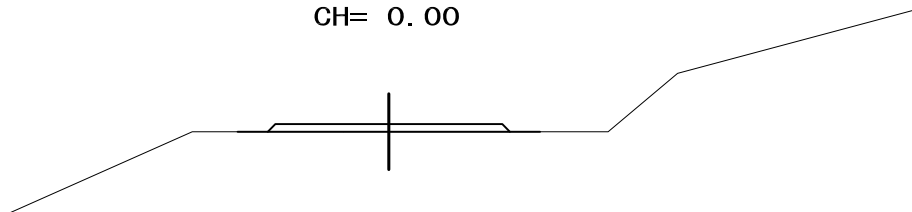


A-35
CH= 0.00

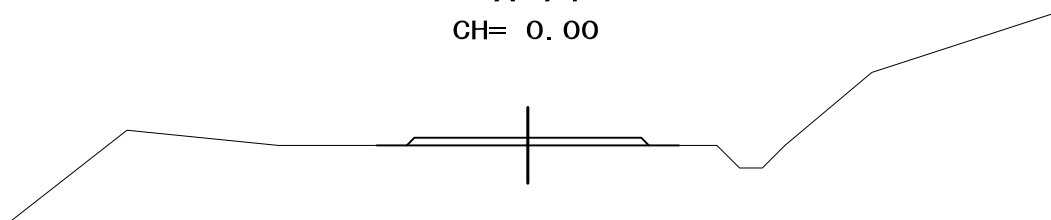


標準横断面図 S=1:100

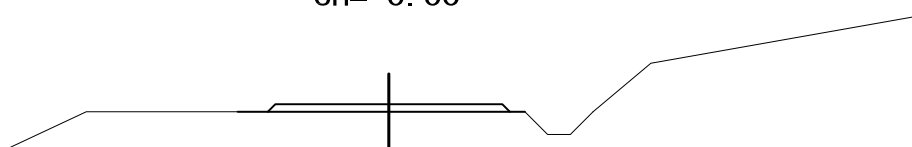
A-80
CH= 0.00



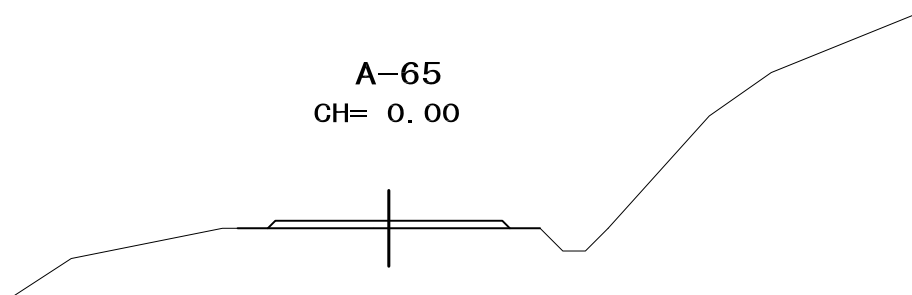
A-74
CH= 0.00



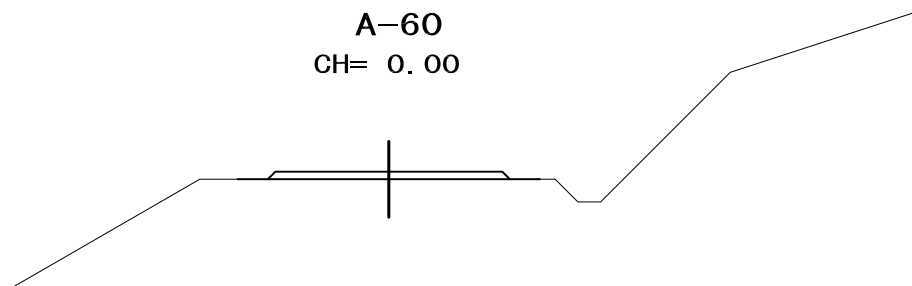
A-70
CH= 0.00



A-65
CH= 0.00



A-60
CH= 0.00



B 路線

路線の概要

B 路線は、A 路線の A-38 と A-39 の中間から 1043 林班と 1041 林班の林班界にあたる尾根部を通過した後、大榎林道の終点から 200m 程度起点側に向かい、下りながら接続する循環路線となる。A 路線ではカバーしきれない 1043 林班と 1041 林班の施業範囲をカバーするとともに、D 路線の分岐点があり A 路線とともに重要な役割を果たす路線となる。

延長

- L= 2,380m

主な構造物

- ポリ波状パイプ（φ0.4m）もしくは暗渠排水工等 . . . 3 箇所
計 3 箇所

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① B-0～B-10 区間

A 路線の A-38 と A-39 の中間を起点として分岐する路線で、出来る限り緩傾斜地を利用しながら 3%～8%程度の縦断勾配で尾根に向かい上がっている。

縦断勾配：3～8%程度

横断勾配：7°～23°程度



A-38 から B 路線取付位置



A-39 から B 路線分岐 方向



B-5 から B-6 方向



B-10 から B-11 方向

② B-11～B-15 区間

B-11～B-15 区間は緩傾斜地を極力利用しながら、地形、地質上安定していると思われる尾根部に向かい平均 4%程度の緩い縦断勾配で上がっている。

縦断勾配：3～8%程度

横断勾配：5°～17°程度



B-11 から B-12 方向



B-15 から B-16 方向

③ B-16～B-20 区間

B-16～B-20 区間は尾根沿いの緩傾斜地を部分的に 7%～9%の上り勾配を利用して上がっていく区間となっている。

縦断勾配：7～9%程度

横断勾配：5°～18°程度



B-17～B-18 方向



B-20～B-21 方向

④ B-21～B-30 区間

B-21～B-30 区間は、予定路線より 20m程度山側の中・緩傾斜地を一部 12%の縦断勾配を利用しながら通過している。また、B-27～B-30 付近の路線山側は急斜面となっている。

縦断勾配：3～12%程度

横断勾配：17°～27°程度



B-24～B-25 方向



B-28～B-29 方向

⑤ B-31～B-40 区間

B-31～B-40 区間は、1043 林班と 1041 林班の境界にあたる尾根部を超えるため一部 12%の縦断勾配を利用しながら上がっている。また、B-40 付近が D 路線の分岐点となっている。

縦断勾配：7～12%程度

横断勾配：8°～27°程度



B-34～B-35 方向



B-40～B-41 方向

⑥ B-41～B-45 区間

B-41～B-50 区間は、3%程度の緩い縦断勾配で緩傾斜地の尾根を越え、1041 林班に入り既設大椈林道に向かい9%程度の縦断勾配を利用しながら下っている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：1°～14°程度



B-42～B-43 方向



B-45～B-46 方向

⑦ B-45～B-55 区間

B-45～B-55 の区間については、予定路線位置を通過すると急傾斜の通過が避けられない。また、既設大榎林道との接続予定位置付近に降りられなくなるため、予定位置より離れ尾根沿いの緩傾斜地を一部9%の縦断勾配を利用しながら下っている。

縦断勾配：3～9%程度

横断勾配：8°～20°程度



B-50～B-51 方向



B-54～B-55 方向

⑧ B-56～B-64 区間

B-56～B-65 区間は、B-56～B-57 を R=12m で巻き返したのち中・緩傾斜地を一部 9% の縦断勾配を利用しながら下っている。

縦断勾配：7～9%程度

横断勾配：9°～22°程度



B-58～B-59 方向



B-62～B-63 方向

⑨ B-65～B-72 区間

B-65～B-72 までの区間は、予定路線位置が急傾斜地であることから 50m程度川側に路線変更し一部集材路跡を利用しながら通過している。

縦断勾配：3～8%程度

横断勾配：9°～12°程度



B-67～B-68 方向（既設集材路跡）



B-71～B-72 方向

⑩ B-73～B-80 区間

B-73～B-80 の区間は B-73 で常水の無い沢をポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工を敷設し渡ったのち、一部 9%の縦断勾配を利用しながら、予定接続位置より既設大榎林道終点側に 40m移動した箇所に接続する。

縦断勾配：5～9%程度

横断勾配：8°～16°程度

B-73 の沢：ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



B-72～B-73 方向



B-73 の常水の無い沢（上流側）



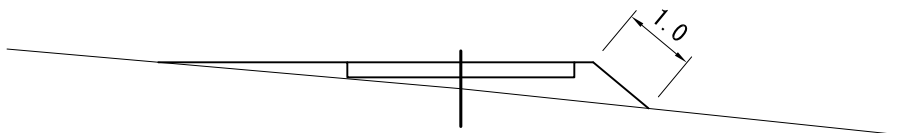
B-73 の常水の無い沢（下流側）



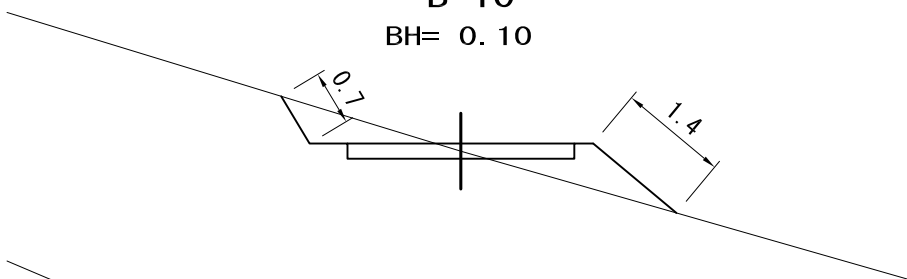
B-79～B-80 方向

標準横断面図 S=1:100

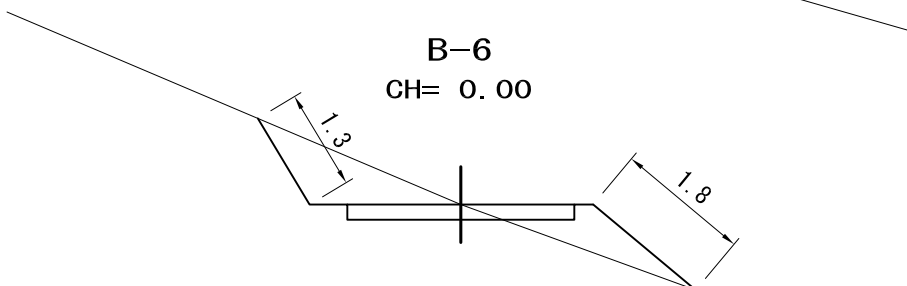
山側取付の場合
B-15
BH= 0.35



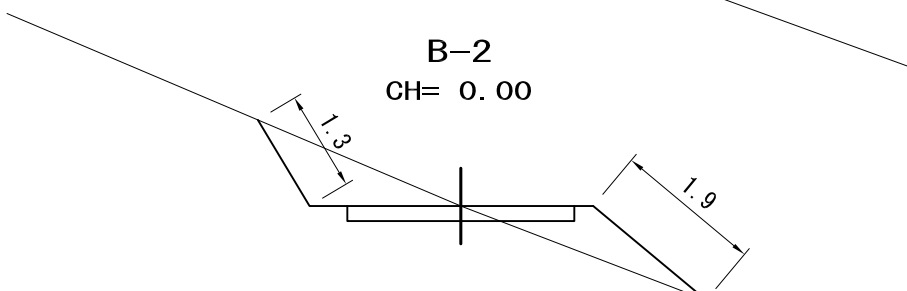
B-10
BH= 0.10



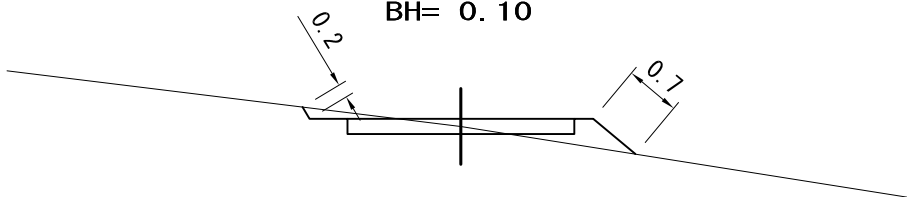
B-6
CH= 0.00



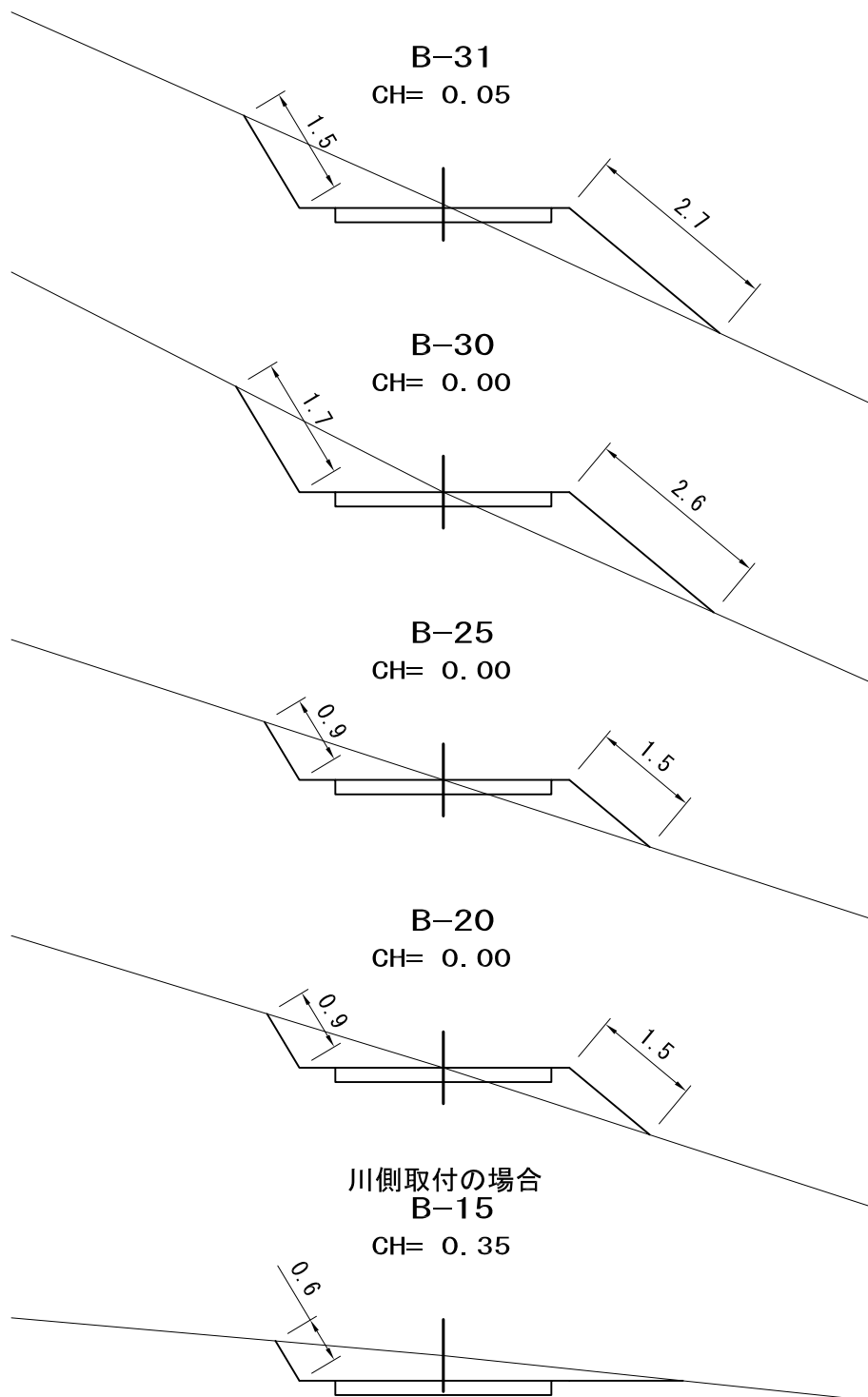
B-2
CH= 0.00



B-0
BH= 0.10

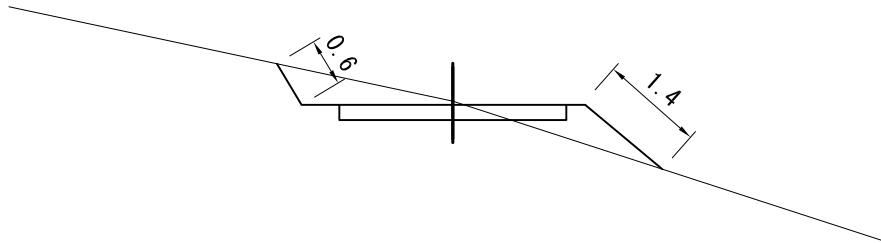


標準横断面図 S=1:100

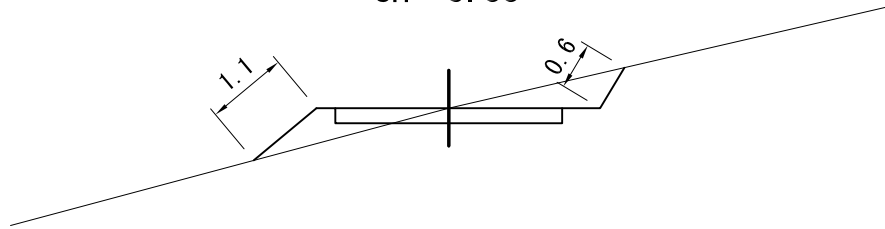


標準横断面図 S=1:100

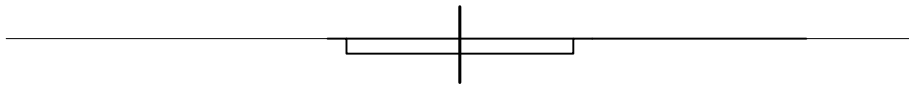
B-55
CH= 0.05



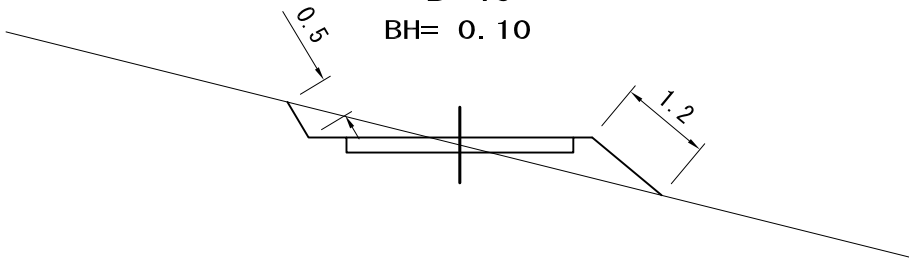
B-50
CH= 0.00



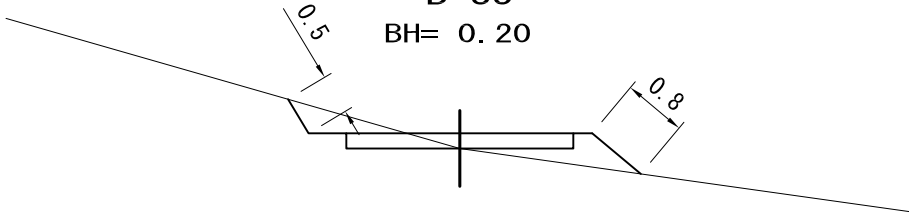
B-46
CH= 0.00



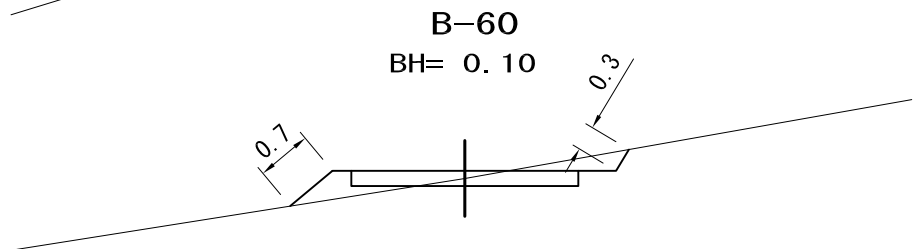
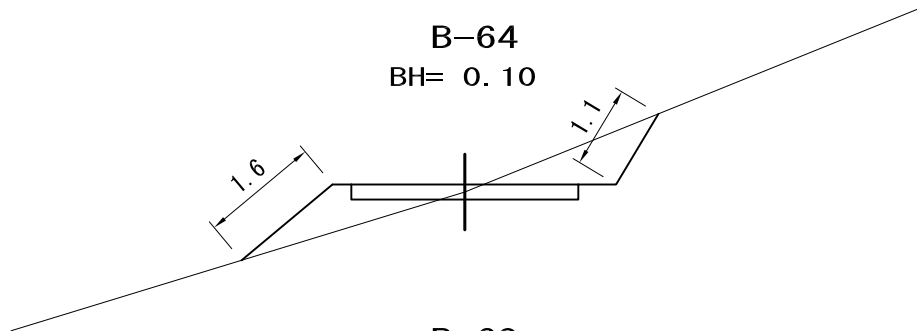
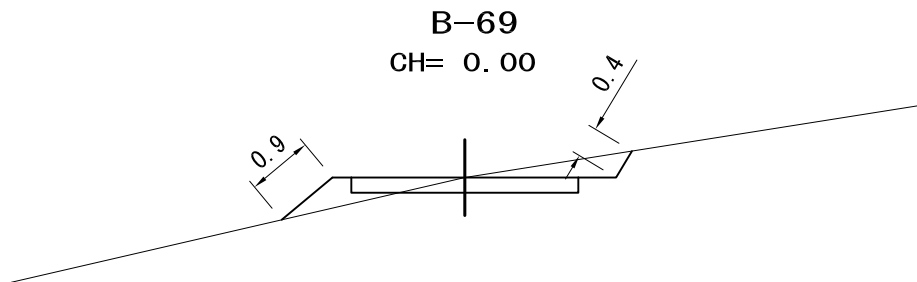
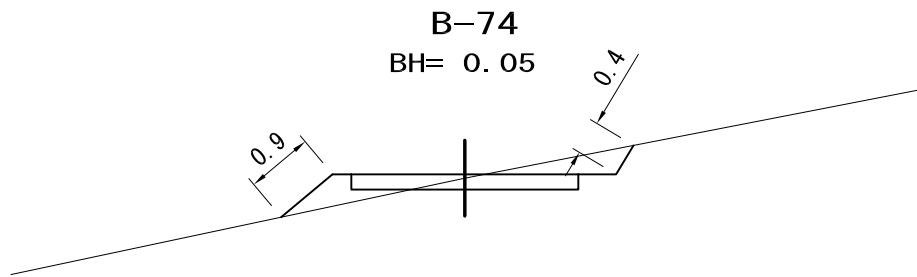
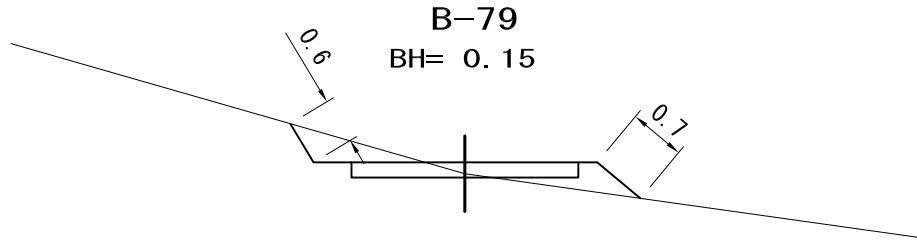
B-40
BH= 0.10



B-35
BH= 0.20



標準横断面図 S=1:100



C 路線

路線の概要

C 路線は、A 路線の A-6 と A-7 の中間付近から分岐し、1042 林班と 1041 林班の境界線となる尾根を越え A 路線の A-53 と A-54 の中間付近に接続する循環路線となる。A 路線ではカバーしきれない造林地 1042 林班か、よ、た、く小班、1041 林班ろ、と小班での施業を行うために計画する路線で、E 路線の分岐点があり A 路線とともに重要な役割を果たす路線となる。また、全体的に湿地の箇所が多く、切土法面からの湧水の恐れがあることから、山側に側溝を設けることとする。

延長

- L= 2,520m

主な構造物

- コルゲートパイプ(φ0.6m) . . . 1箇所
- コルゲートパイプ(φ2.5m)、もしくは
BOX カバー(B=1.5 H=1.5) か、洗い越し工 . . . 1箇所
- 計 2箇所
- ポリ波状パイプ(φ0.4m) もしくは暗渠排水工等 . . . 6箇所

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。
- 沢渡り前後の水捌けの悪い区間や、既設集材路跡等から表面水が集まるような箇所については、山側に側溝を設置する。

① C-0～C-5 区間

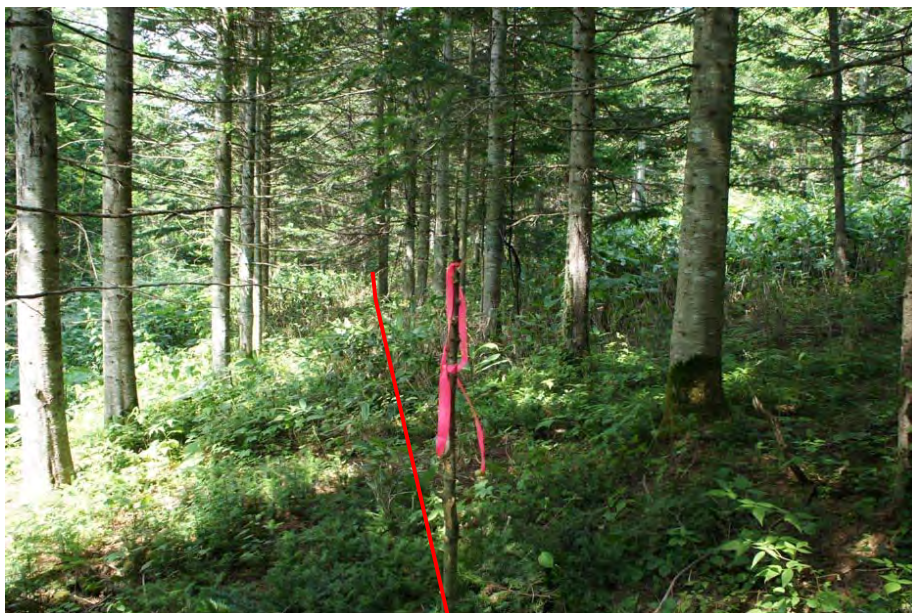
A 路線との分岐予定位置は現地確認の結果 50m手前の高低差の無い箇所を利用することとし、その後 2%程度の緩い縦断勾配で、緩傾斜地を通過している。

縦断勾配：1～6%程度

横断勾配：2°～16°程度



A 路線との分岐点 A-6 と A-7 の中間から C-1 方向



C-4 から C-5 方向

② C-5～C-11 区間

切盛土が少ない最も沢渡りに適した C-10～C-11 の区間を利用するため、予定箇所より 40m程度山側の緩傾斜地を 3～7%程度の縦断勾配で通過している。

縦断勾配：3～7.5%程度

横断勾配：6°～12°程度

C-10～C-11 の沢：沢勾配 12% コルゲートパイプ(φ0.6m)程度が必要。



C-5～C-6 方向



C-10～C-11 方向



C-10~C-11 の沢上流方向



C-10~C-11 の沢下流方向

③ C-12～C-16 区間

予定路線位置は、湧水やA路線の側溝水が集材路跡を伝って滞留し、いたるところが湿地となっていることから、9%の縦断勾配を利用しながら川側に100m程度迂回して通過している。

縦断勾配：6～9%程度

横断勾配：4°～6°程度



C-12～C-13 方向



C-16～C-17 方向



予定路線位置の湿地箇所①



予定路線位置の湿地箇所②



予定路線位置の湿地箇所③



予定路線位置の湿地箇所④

④ C-17～C-21 区間

湿地を避け迂回する必要があることと、予定路線位置はコルゲートパイプが必要な沢渡りを、2 箇所通過しなければならないことから、100m程度川側の沢渡りに最も適している C-20～C-21 の位置に路線を変更した。また、C-17～C-20 の区間は湧水や表流水が出る可能性が高いため側溝を設ける。

縦断勾配：1～4%程度

横断勾配：8°～10°程度

C-17～C-18 の沢：沢勾配 10% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。

C-20～C-21 の沢：沢勾配 7% コルゲートパイプ(φ2.5m)、もしくはBOXカバー(B=1.5 H=1.5)程度が必要。



C-16～C-17 方向



C-20～C-21 方向



C-20～C-21 の沢上流方向



C-20～C-21 の沢下流方向

⑤ C-22～C-30 区間

C-22～C-30 区間は予定路線に向かい、緩傾斜地を平均 4%程度の縦断勾配で上がっている。C-18～C-32 までの区間は、地すべり分布図の該当箇所となっているが、造林木の状況から現在は落ち着いていると考えられるため、切盛りを最小限に抑えて通過する。

また、C-23～C-24 付近については、湿潤で肥沃な土壌を好むヤチダモやヤチハンノキ等が多く自生していることから試掘を行ったところ、表層の 50～60 cm 程度が礫交じりの普通土で、その下層の 100 cm 程度の厚さについては、固い礫交じりの粘性土であり湧水は見られなかった。

縦断勾配：2.5～7%程度

横断勾配：8°～11°程度



C-23～C-24 の中間付近（土質の状況①）



C-23～C-24 の中間付近（土質の状況②）



C-25~C-26 方向



C-30~C-31 方向

⑥ C-31～C-40 区間

C-31～C-40 区間は、1043 林班と 1042 林班の境界にあたる尾根を、出来る限り大きく巻いて、一部 9%の縦断勾配を利用して上がった後、予定路線位置が急傾斜地を通過することから、40m程度山側の中傾斜地を通過して下っていく。C-31 付近は山土場に利用できる平地がある。また、森林作業道の分岐点になっている。

縦断勾配：3～8%程度

横断勾配：11° ～34° 程度



C-31～C-32 方向



C-35～C-36 方向



C-39 川側の予定路線付近 急傾斜地①



C-39 川側の予定路線付近 急傾斜地②

⑦ C-41～C-50 区間

C-41～C-50 区間は、急傾斜地を避けたため予定路線の 50m～100m 程度山側を、一部既設集材路を利用しながら C-48 で常水の無い沢形状をした箇所と、中・緩傾斜地を通過している。

縦断勾配：3～9%程度

横断勾配：12°～28°程度

C-48 の沢：沢勾配 22% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



C-44～C-45 方向



C-50～C-51 方向

⑧ C-51～C-60 区間

C-51～C-60 区間は、緩傾斜地を予定路線位置に向かい平均 5%程度の縦断勾配で下った後、常水の無い沢形状をした箇所と、集材路を伝って湧水が流れる C-57 を超えた後へアピンで巻き返す位置に向かい上がっていく。

縦断勾配：3～9%程度

横断勾配：5°～12°程度

C-52 の沢：沢勾配 18% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。

C-57 の沢：沢勾配 8% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



C-51～C-52 方向



C-57～C-58 方向

⑨ C-61～C-70 区間

C-61～C-70 区間は、緩傾斜地でヘアピンを巻き返した後、1042 林班と 1041 林班の境界にあたる山土場に利用可能な尾根の平場を通過し E 路線の分岐点に向かい下っている。

縦断勾配：1～8%程度

横断勾配：2°～7°程度



C-61～C-62 方向



C-70～C-71 方向

⑩ C-71～C-80 区間

C-71～C-80 区間は、緩傾斜地を E 路線の分岐点に向かい 70m 程度下った後、常水の無い沢を二箇所通過している。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：2°～17°程度

C-75～C-76 の沢：沢勾配 10% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。

C-79～C-80 の沢：沢勾配 10% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



C-72～C-73 方向



C-79～C-80 方向

⑪ C-81～C-90 区間

C-81～C-90 区間は、平均 5%程度の緩い縦断勾配で、緩傾斜地を通過しながら A 路線の A-52 と A-53 の中間点に接続する。

縦断勾配：1～8%程度

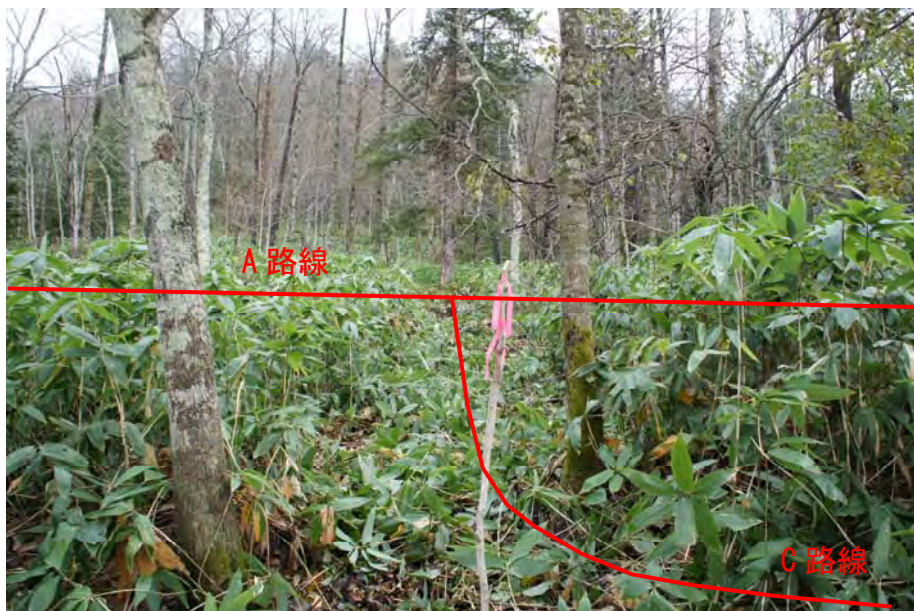
横断勾配：12°～17°程度



C-81～C-82 方向



C-86～C-87 方向



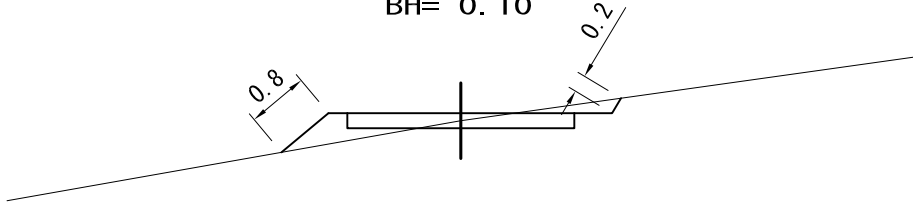
C-89～終点 C-90 方向



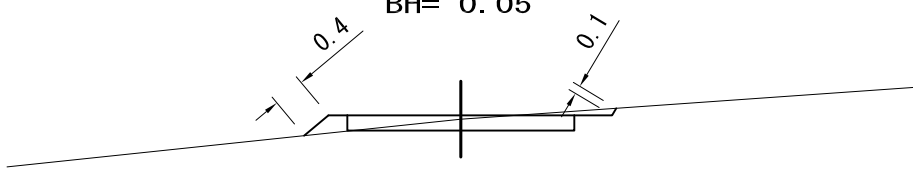
A 路線との接続点 C-90 (終点)

標準横断面図 S=1:100

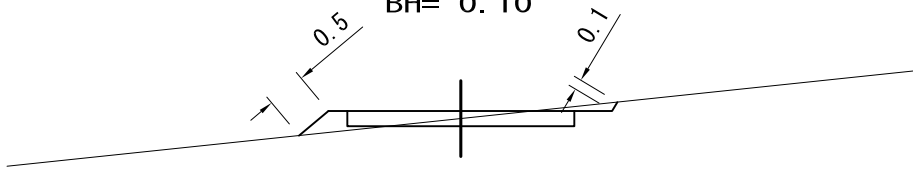
C-20
BH= 0.10



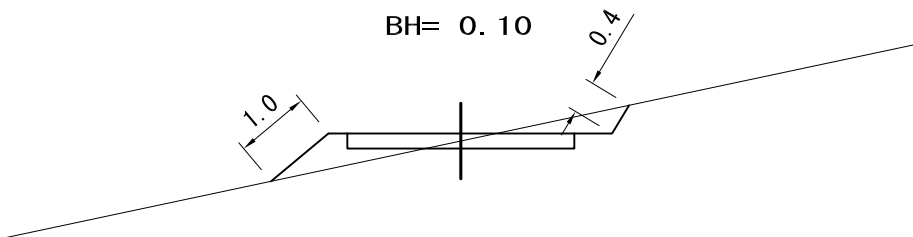
C-15
BH= 0.05



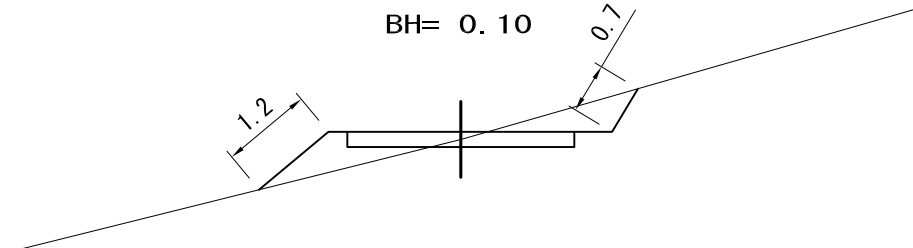
C-10
BH= 0.10



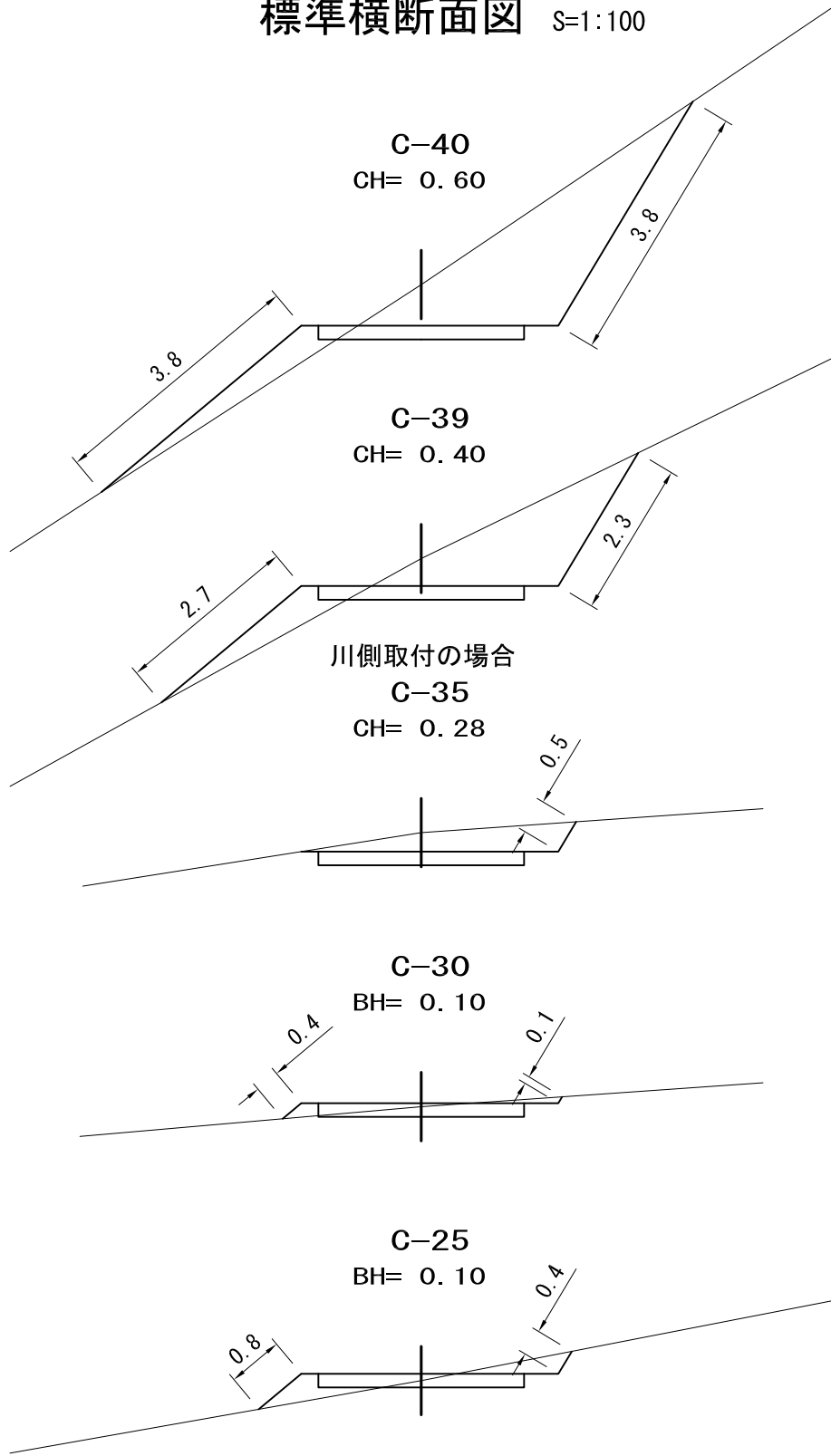
C-5
BH= 0.10



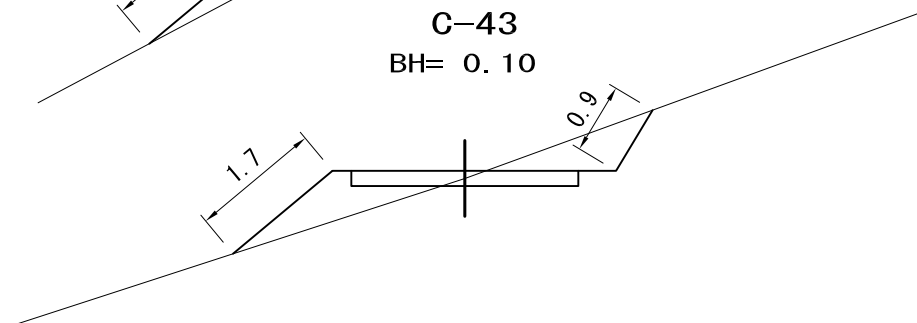
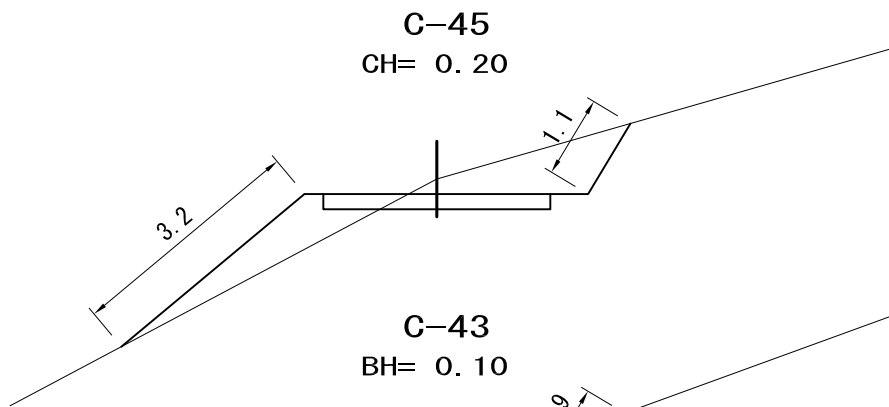
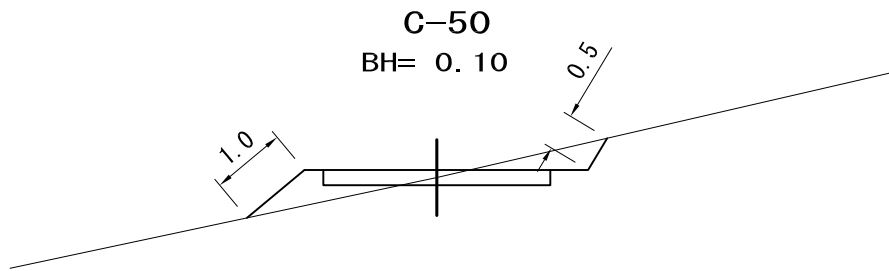
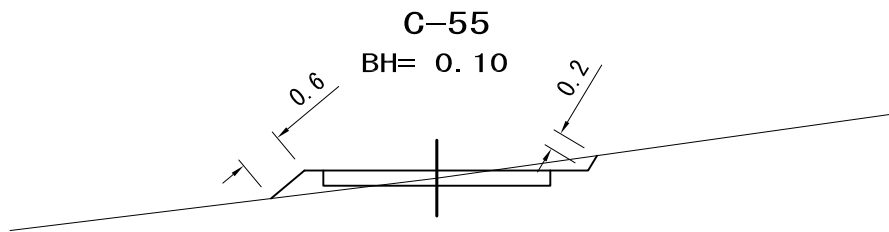
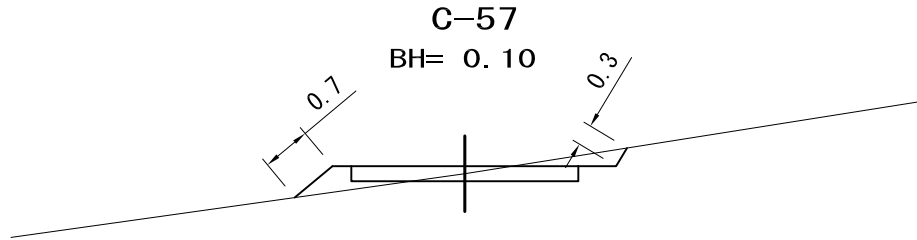
C-1
BH= 0.10



標準横断面図 S=1:100



標準横断面図 S=1:100

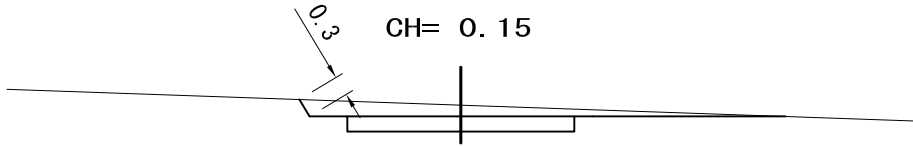


標準横断面図 S=1:100

川側取付の場合

C-70

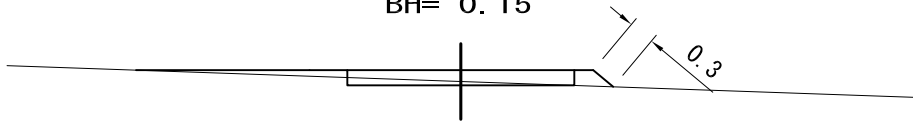
CH= 0.15



山側取付の場合

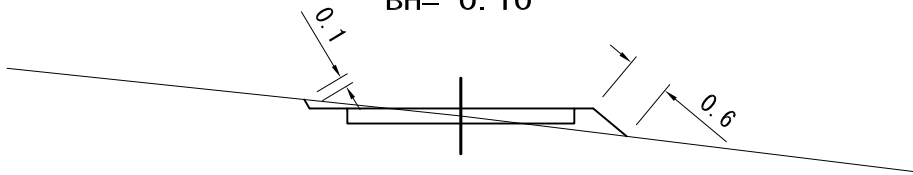
C-70

BH= 0.15



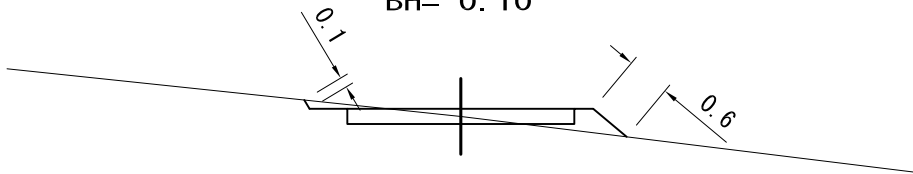
C-68

BH= 0.10



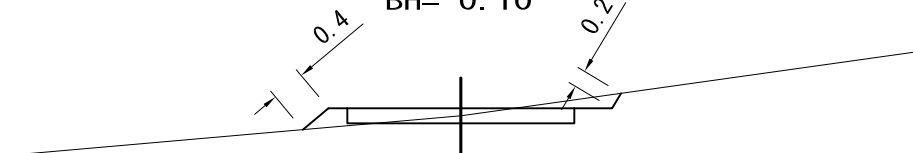
C-65

BH= 0.10

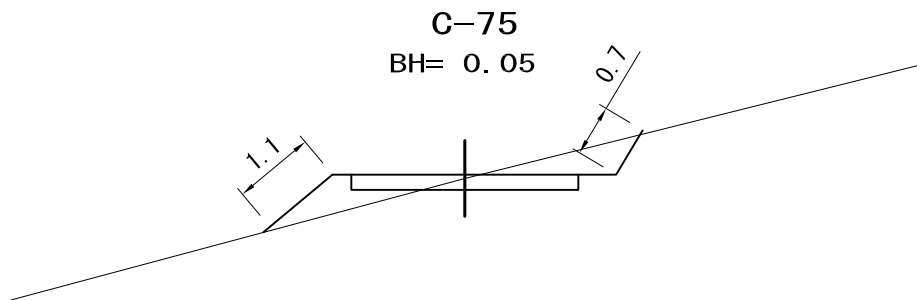
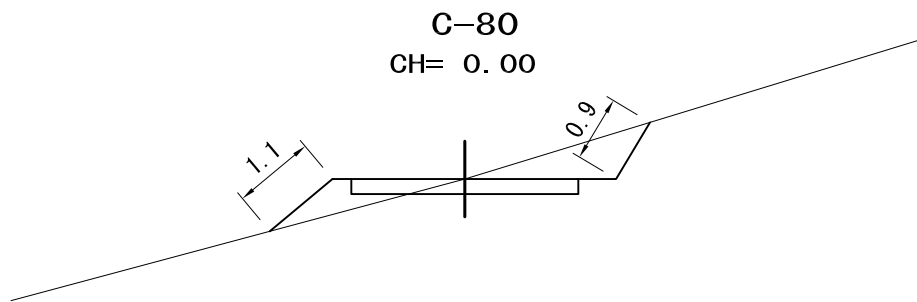
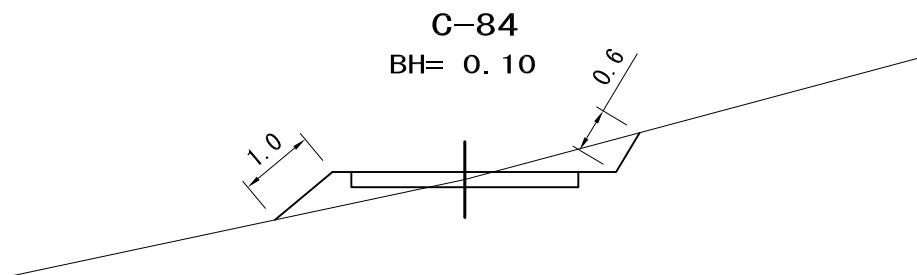
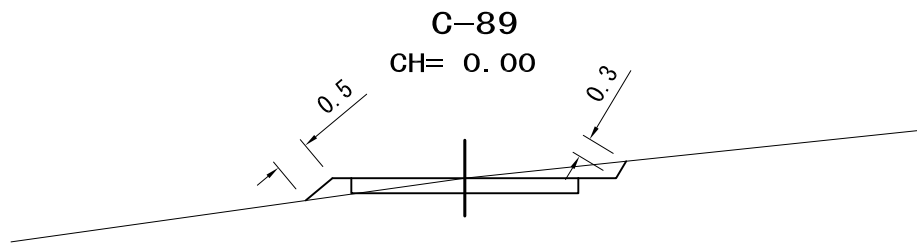


C-60

BH= 0.10



標準横断面図 S=1:100



D 路線

路線の概要

D 路線は、B 路線の B-40 と B-41 の中間を起点として分岐する枝線で、B 路線ではカバーしきれない川側の造林地 1043 林班り小班、ち小班での施業を行うために計画する路線である。

延長

- L= 440m

主な構造物

- D 路線は尾根筋が近く集水範囲が小さいことと、流水による浸食等の形跡が見られないことから、排水施設等の構造物設置は行わない。

その他

- D-8 から終点にかけて緩傾斜を通過する区間は、森林作業道の取り付が可能。

① D-0～D-5 区間

B 路線の B-40 と B-41 の中間を起点とし、緩傾斜地を概ね 2%～4%程度の緩い縦断勾配で、中傾斜地の D-5 に向かい上がっている

縦断勾配：2～8%程度

横断勾配：6°～28°程度



B 路線との分岐点から D-1 方向



D-4～D-5 方向

② D-6～D-10 区間

D-6～D-10 の区間は中・緩傾斜を 1～6%程度の緩い縦断勾配を利用しながら終点に向かい上っている。

縦断勾配：1～6%程度

横断勾配：9°～18°程度



D-6～D-7 方向



D-9～D-10 方向

③ D-11～D-13 区間

D-11～D-13 の区間は緩傾斜を 1%程度の非常に緩い縦断勾配を利用しながら終点に向かい上っている。

縦断勾配：1%程度

横断勾配：6°～10°程度

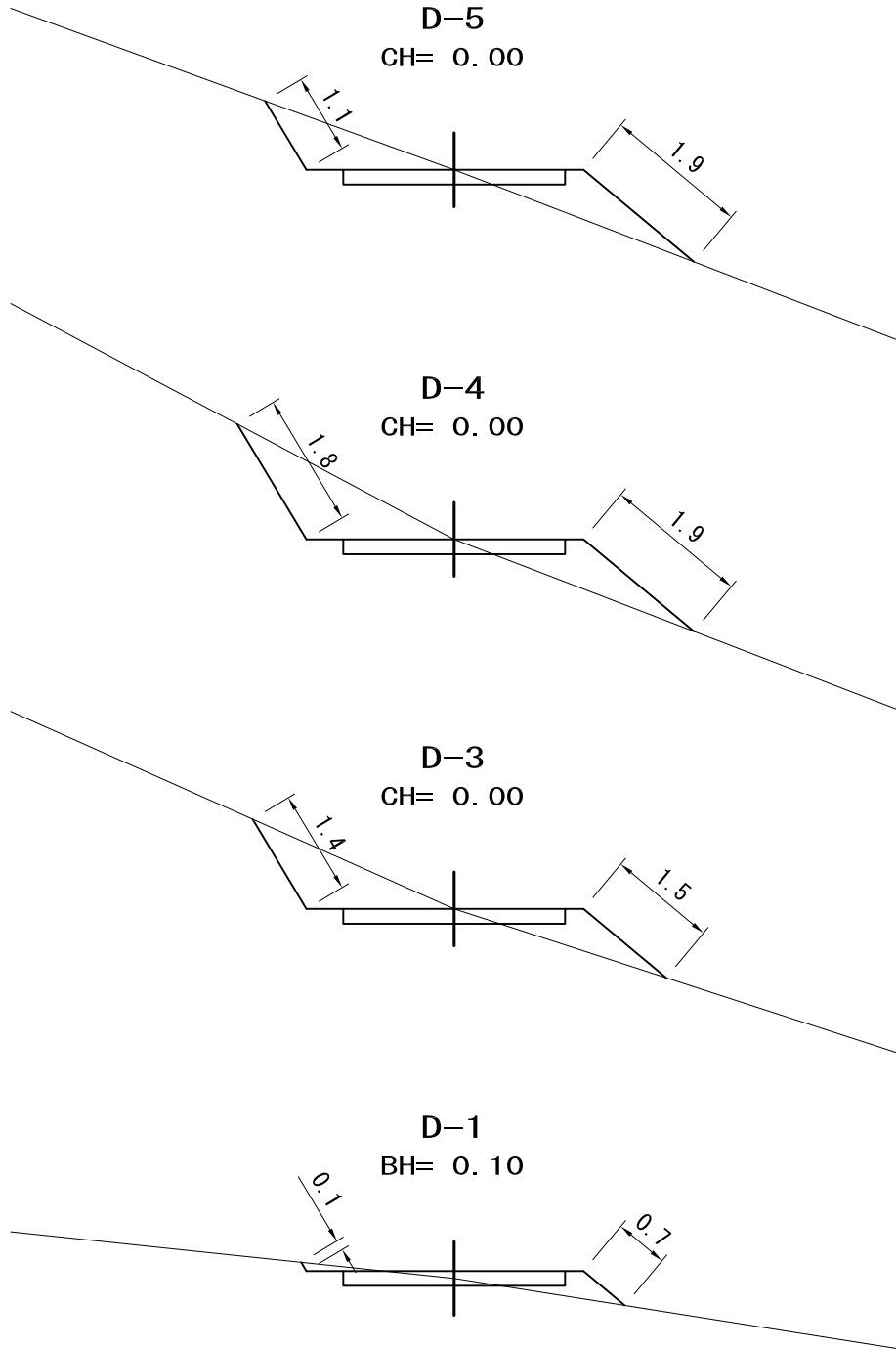


D-11～D-12 方向

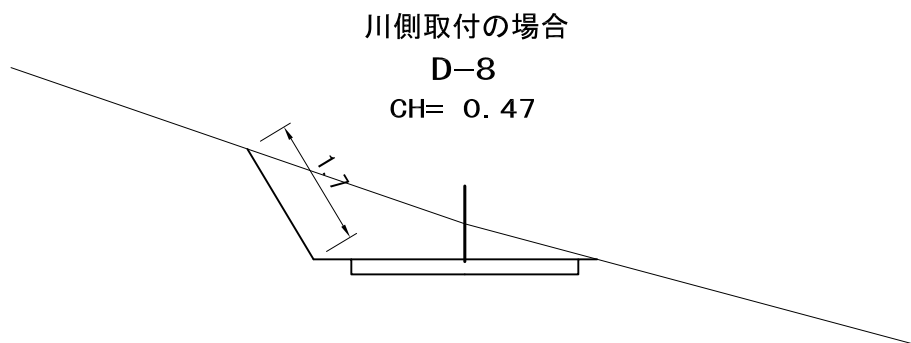
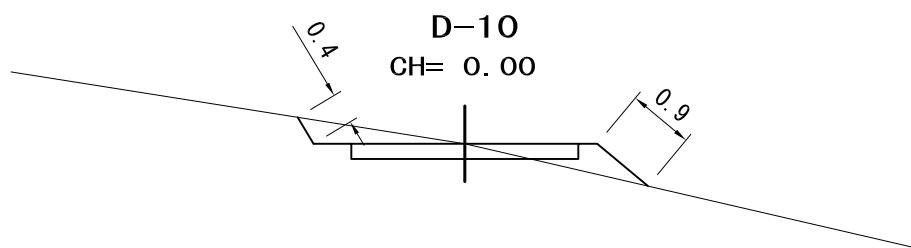
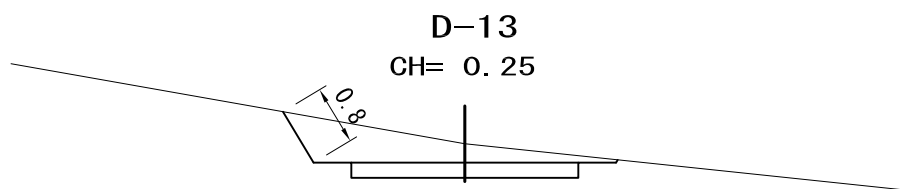


終点 D-13 から奥方向

標準横断面図 S=1:100



標準横断面図 S=1:100



E 路線

路線の概要

E 路線は、C 路線の C-72 を起点として分岐し A 路線の A-80 と A-81 の中間に接続する循環路線で、C 路線ではカバーしきれない 1041 林班と小班、に小班、の小班での施業を行うために計画する路線である。第 3 回検討委員会で、路線位置の変更を行ったが、第 4 回検討委員会で意見に A 路線との間隔が近いことと、A 路線から分岐する既設作業道の延長が 600m 程度あり、長すぎることで再度検討を行った。A 路線から出来る限り距離を離すような位置として、既設森林作業道の中間に接続した。また、既設森林作業道の利用できる区間は格上げして林業専用道とし、縦断勾配が 18% 程度の箇所については川側に位置を変更して、延長を延ばすことで縦断勾配を確保し A-80 と A-81 の中間に接続した。

延長

- L= 1,730m

主な構造物

- ポリ波状パイプ (φ0.4m) もしくは暗渠排水工等 . . . 1 箇所
計 1 箇所

その他

- E-15 の川手側 10m 程度の位置から伏流水による湧水がある。ここから沢が始まっているため、この沢頭の山側を低い盛土と暗渠を利用して通過させることで、大きな排水施設の設置を避けた。

① E-0～E-5 区間

C 路線の C-72 を起点として分岐する路線で、中・緩傾斜地を 8～9%の縦断勾配で下っている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：2°～21°程度



C 路線の分岐点 C-72 から E-1 方向



E-5 から E-6 方向

② E-6～E-10 区間

E-6～E-10 の区間は、中・緩傾斜地の中腹箇所を 4～8%の縦断勾配で下りながら巻返した後、E-15 の沢頭の上に向かってている。

縦断勾配：4～8%程度

横断勾配：5° ～25° 程度



E-6 から E-7 方向



E-10 から E-11 方向

③ E-11～E-15 区間

E-11～E-15 の区間は、大きな排水施設の設置を避けるため、沢頭山側の緩傾斜地を低い盛土と暗渠を利用し、6%以下の緩い縦断勾配で通過している。

縦断勾配：1～6%程度

横断勾配：5°～16°程度



E-12 から E-13 方向



E-15 から E-16 方向



E-15 の川手側湧水箇所



E-15 の山手側

④ E-16～E-20 区間

E-16～E-20 の区間は、緩傾斜地の中腹箇所を 6%程度の縦断勾配を利用して、既設森林作業道に向かって下っている。

縦断勾配：2～7%程度

横断勾配：5°～11°程度



E-16 から E-17 方向



E-19 から E-20 方向

⑤ E-21～E-30 区間

E-21～E-30 の区間は、中・緩傾斜地の中腹箇所を 6%程度の縦断勾配を利用して、既設森林作業道に向かって下っている。

縦断勾配：1～7%程度

横断勾配：7°～18°程度



E-21 から E-22 方向



E-27 から E-28 方向

⑥ E-31～E-40 区間

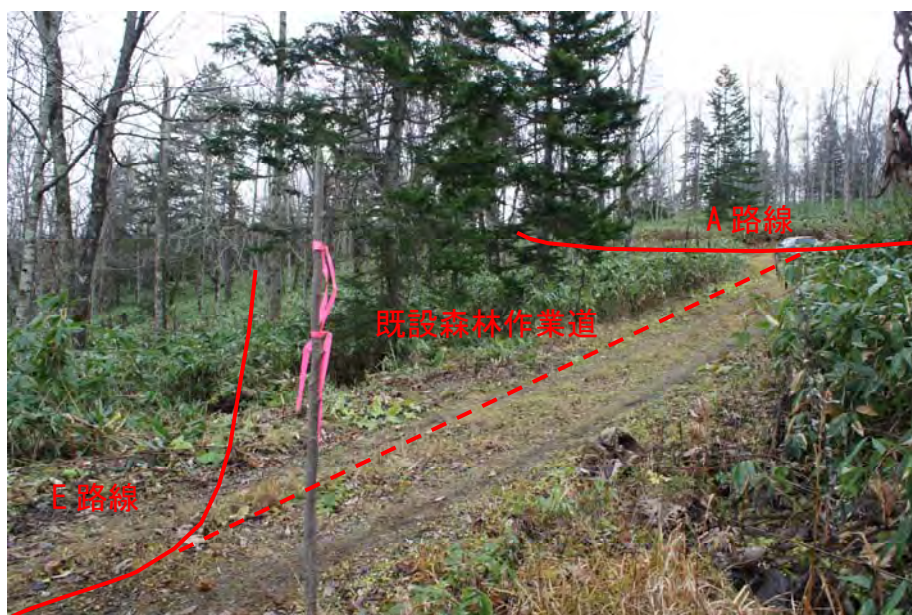
E-31～E-40 の区間は、緩傾斜地の中腹箇所から既設森林作業道に接続し、一部既設森林作業道と 12%の急な縦断勾配を利用しながら、A 路線の接続部に向かっている。

縦断勾配：6～12%程度

横断勾配：5°～14°程度



E-33 から E-34 方向



E-38 から E-39 方向



E-38 沢上流から路線方向



E-38 既設ポリ波状管呑口上流方向

⑦ E-41～E-45 区間

E-41～E-45 の区間は、緩傾斜地を 9% の急な縦断勾配を利用して、A 路線の A-80～A-81 の中間点に接続している。

縦断勾配：4～9%程度

横断勾配：6°～20°程度



E-41 から E-42 方向



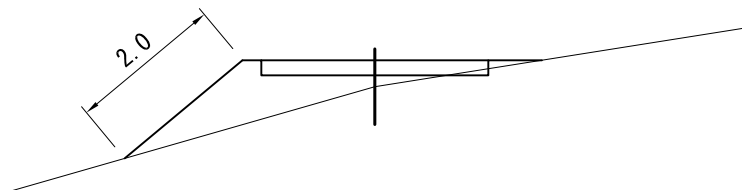
E-44 から E-45 方向

標準横断面図 S=1:100

沢水が伏流している箇所

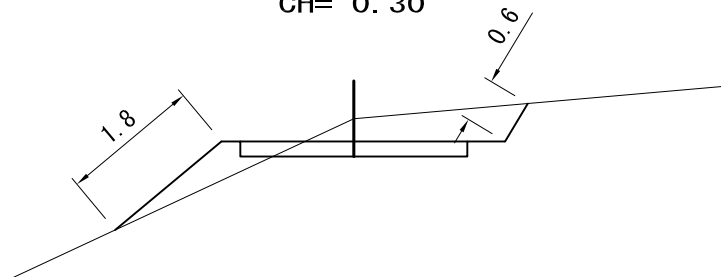
E-15

BH= 0.35



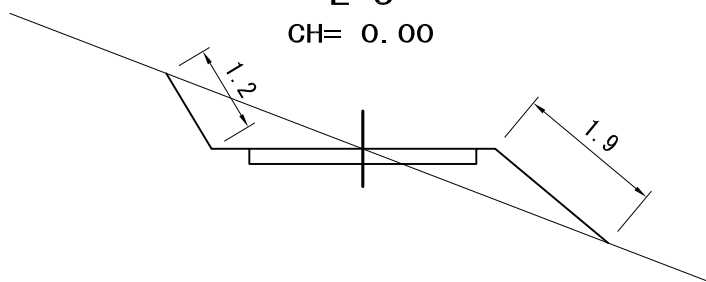
E-10

CH= 0.30



E-5

CH= 0.00



E-0

BH= 0.07

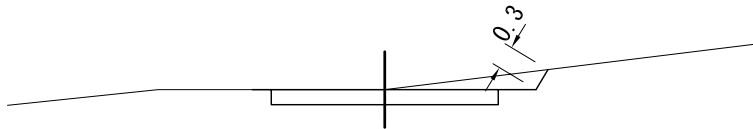


標準横断面図 S=1:100

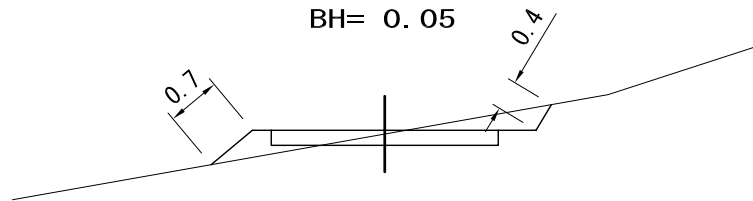
E-38
CH= 0.07



E-33
CH= 0.00

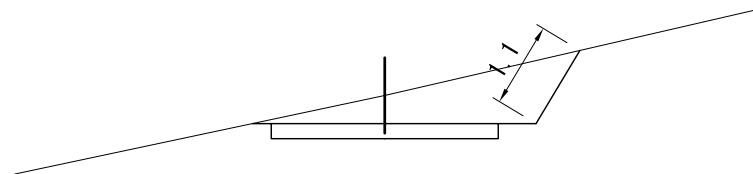


E-30
BH= 0.05

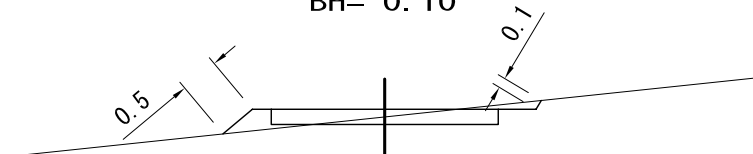


川側取付の場合

E-25
CH= 0.37

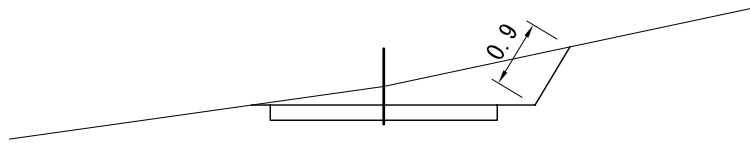


E-20
BH= 0.10

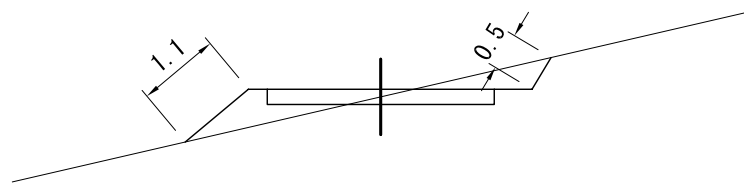


標準横断面図 S=1:100

E-44
CH= 0.25



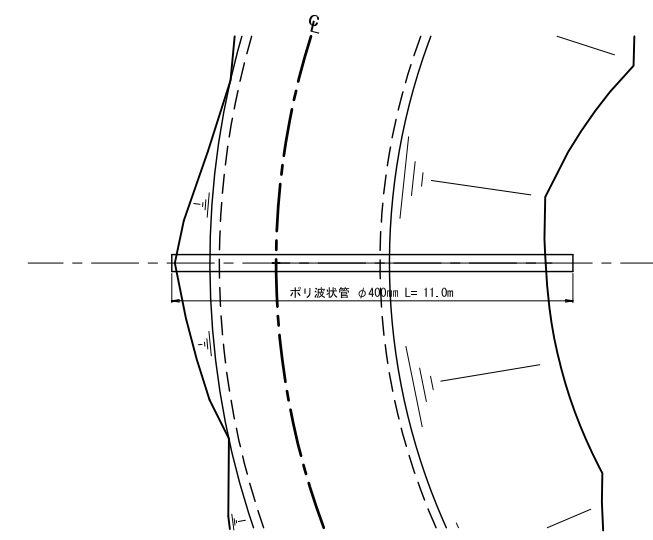
E-40
BH= 0.10



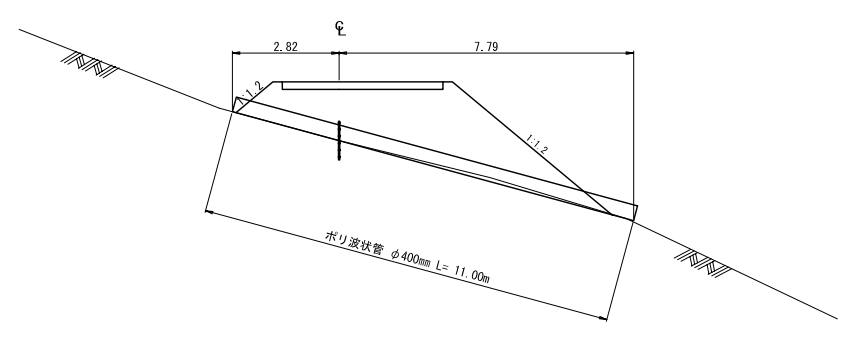
想定される標準構造物図① S=1:200

排水施設
ポリ波状管

平面図

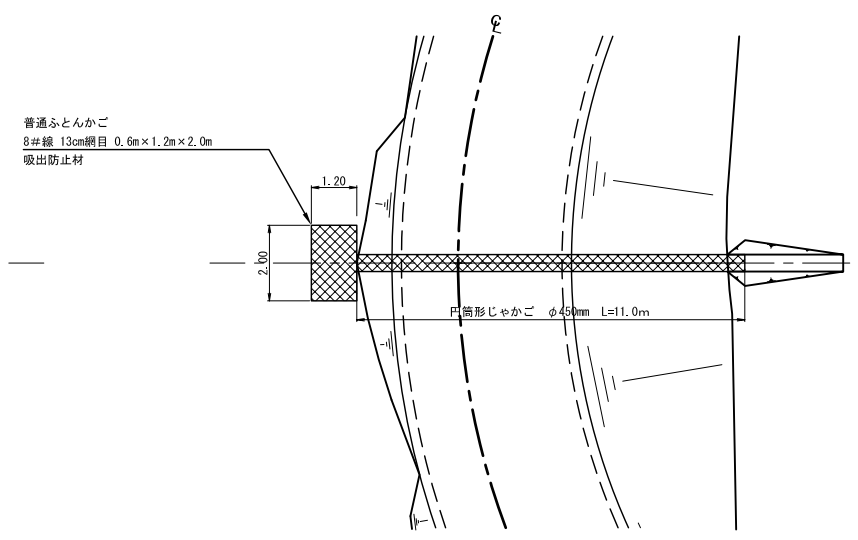


断面図

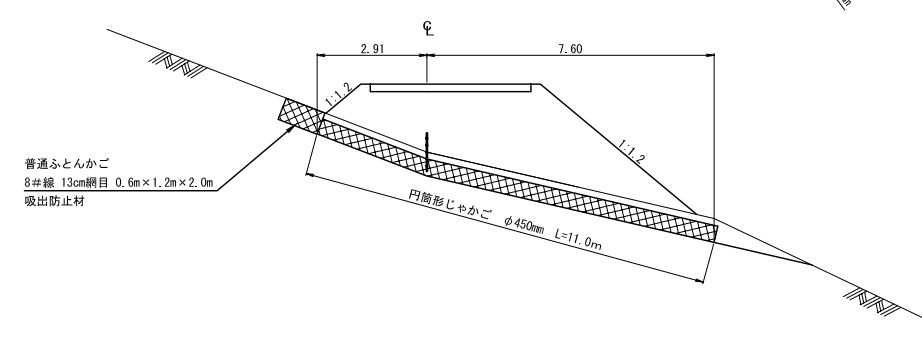


排水施設
暗渠排水 (円筒形じゃかご)

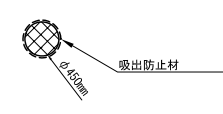
平面図



断面図

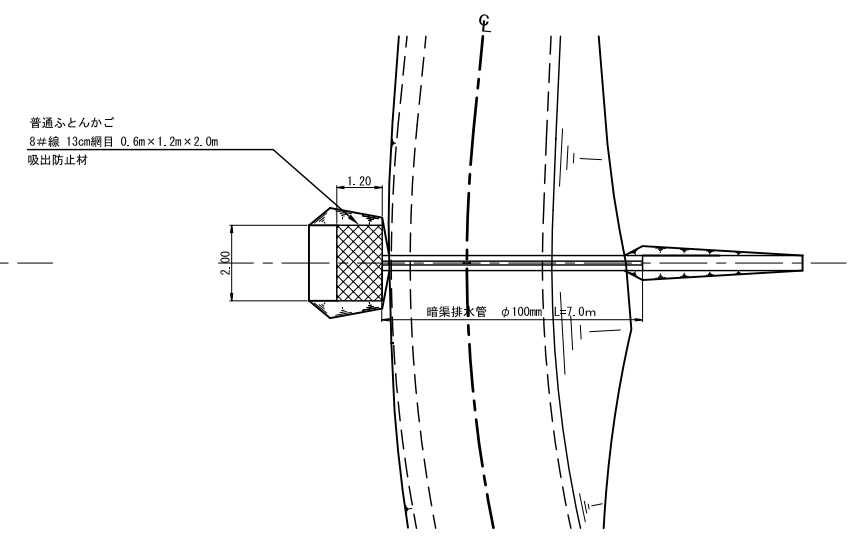


円筒形じゃかご断面図 S=1:50

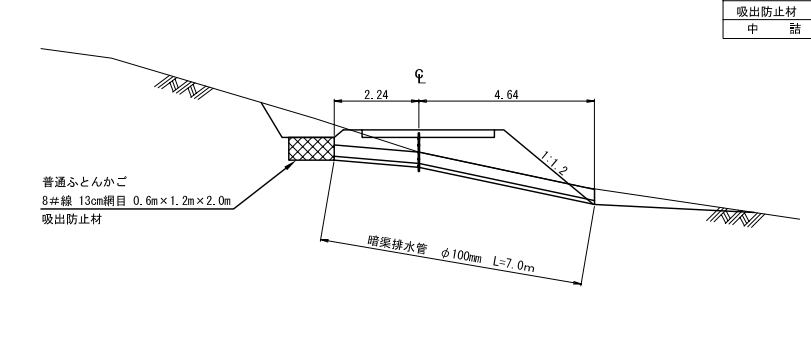


排水施設
暗渠排水 (有孔管)

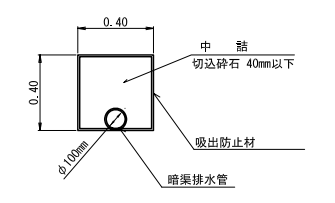
平面図



断面図



パイプ暗渠排水工断面図 S=1:40

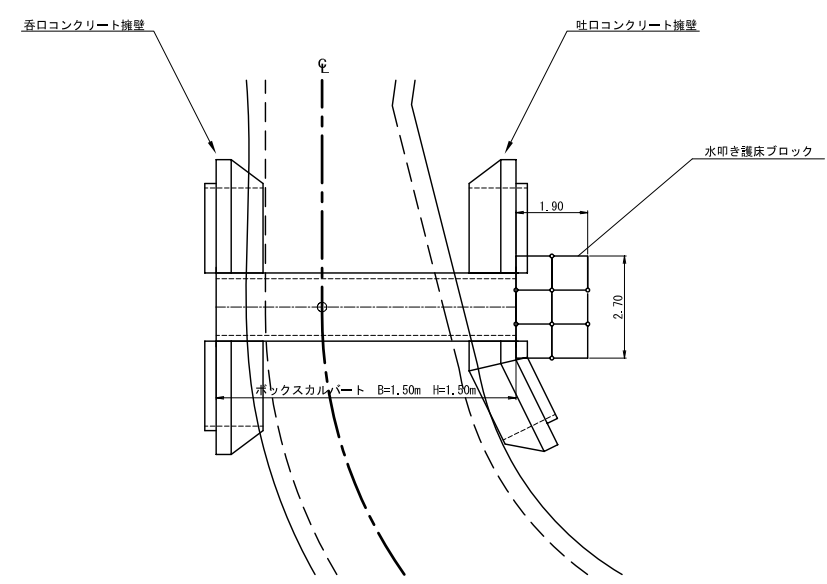


材料表

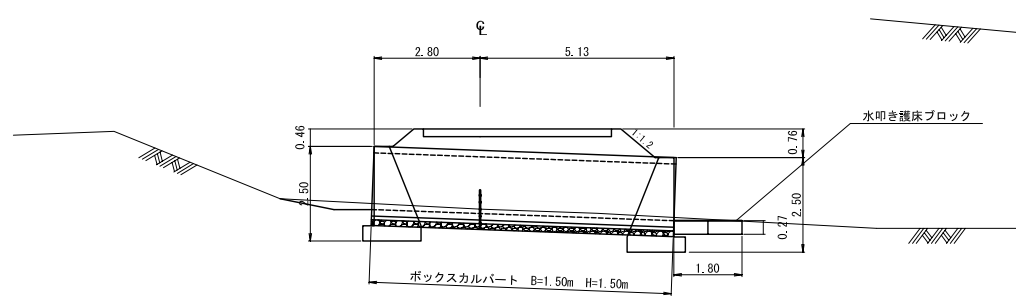
名称	適用	規格・寸法
暗渠排水管	高密度ポリエチレン管 (有孔) φ100	
吸出防止材	厚10mm	
中詰	切込砕石 40mm以下	

排水施設
ボックスカルバート

平面図

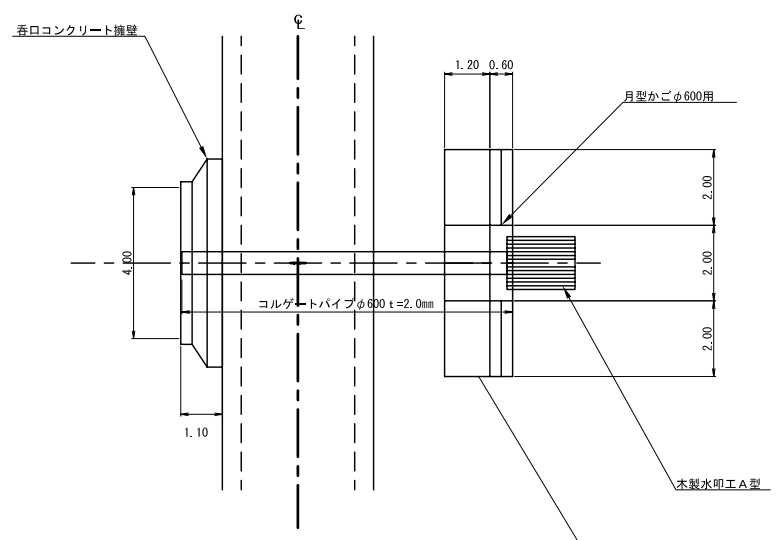


断面図

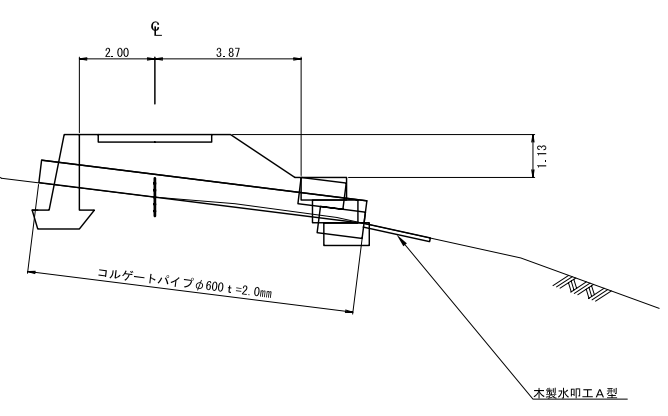


排水施設
コルゲートパイプ

平面図

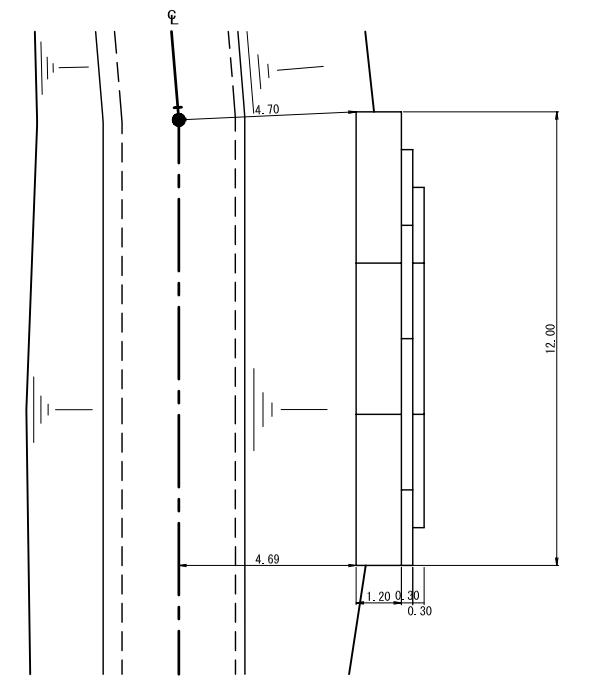


断面図

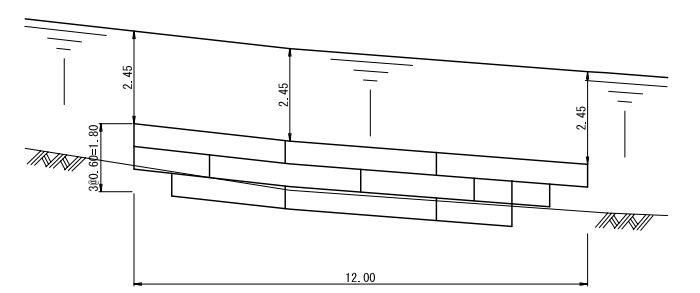


擁壁工
ふとんかご

平面図

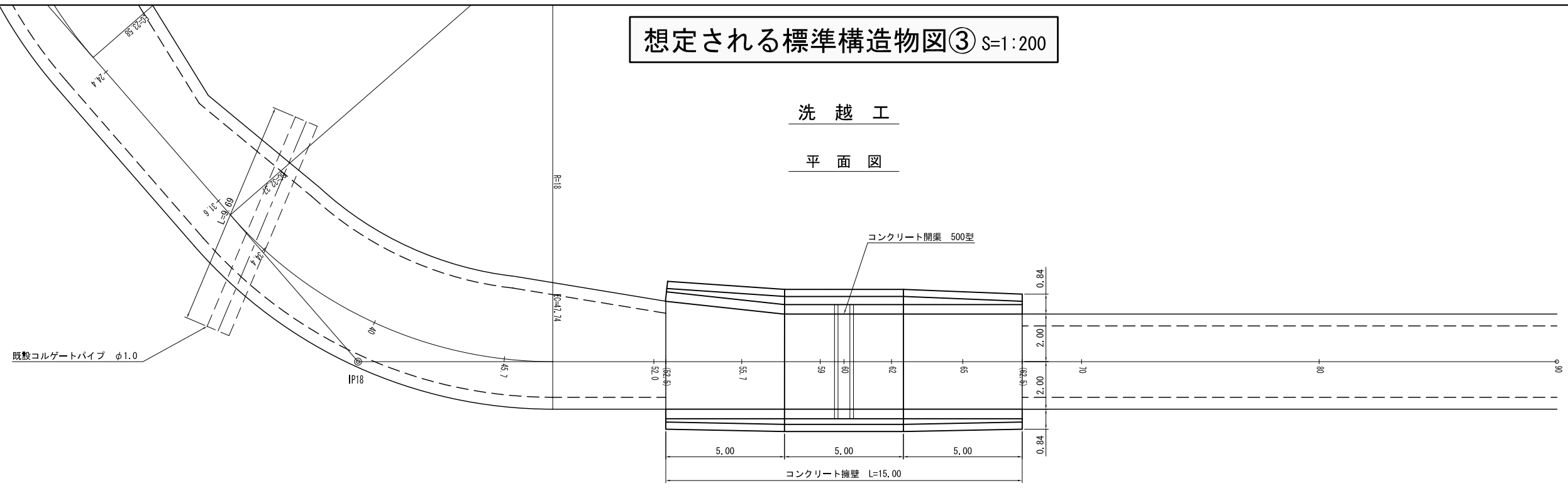


正面図

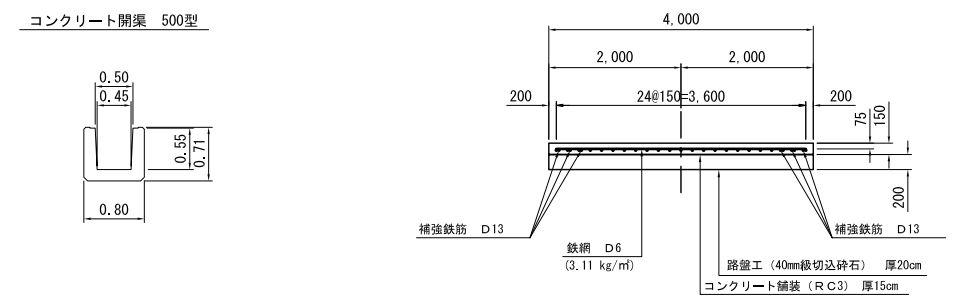


想定される標準構造物図③ S=1:200

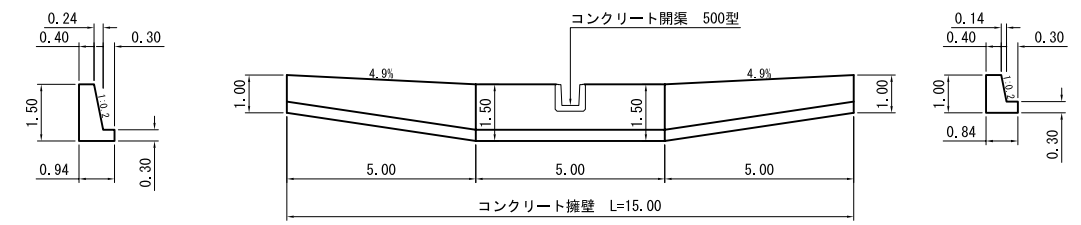
洗越工
平面図



断面図 S=1:50



呑口正面図



吐口正面図

